

令和4年度 学校評価 竹田小・学校パワーアッププラン

1 目標・方針

中期的な学校運営の目標・方針	<p>学校教育目標 みいだし・みんなと・みらいを創る ～学び合う喜び・人と交わる心地よさ～</p> <p>確かな学力 自分の考えが持てる子 学びを深め合う子 豊かなところ 自分も相手も大切に使う子 「ふるさと竹田」を大切にする子 健やかなからだ 命や健康を大切にする子 自立性や社会性を育む安全・防災の追究</p>
本年度の重点目標	<p>自律した児童の育成 (竹田っ子に伸ばしていきたい3つの力)</p> <p>「自分で考えて、行動できる力」 「新しいことやはじめてのことでも挑戦、チャレンジできる力」 「友だち、仲間とともに学べる力」</p>

2 自己評価 (達成状況 A:優れている B:おおむね良好 C:やや改善 D:要改善)

領域	観点	評価項目	達成状況	学校の取組状況と改善の方策
学校運営	保護者地域との連携による児童の育成	情報発信	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりや保健だより、学年通信、HP (校長室より・今日の竹田っ子) 等を通して情報発信に努めた。 また、感染状況を鑑みながら、学校行事を通して子どもたちの姿を参観いただく機会を設けた。来年度の参観日では、前山小児童とともに教室で学習している様子を両地域・保護者に参観いただく機会を設ける。
		生活習慣の確立		<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍、制限がある中で子どもが元気に通える学校、信頼関係づくりに努めた。また家庭での生活習慣の確立に向けて毎学期元気大作戦に取り組み、生活の改善の一助としている。来年度の元気大作戦では、学年に応じて取り組む項目を絞り、主体的に自身の生活を見直せる取組となるよう保護者・児童に啓発していく。
		ふるさと意識の醸成		<ul style="list-style-type: none"> 各学年に応じて地域学習に取り組んだ。地域の方々を招いての学習や調理を伴う学習などは、コロナ禍により変更せざるを得ない状況があった。現在、統合に向けて両地域のふるさと学習の内容協議を行っており、「防災教育」など両校で大切にする項目を学校支援コーディネーターに支援いただきながら決定していく。
教育課程	学習指導	協働的な学びと個別最適な学びの充実とICTの活用	A	<ul style="list-style-type: none"> 確かな学力の定着とともに、どのように学ぶか、学び方を児童が身につけられるように、タブレットを活用するなどし、学年に応じて多様な学びを展開した。 また、学んだことを活かす場として、児童会行事や学級活動、総合的な学習の時間を位置づけ、家庭学習においても自己調整力 (自分の得意苦手を把握して何をどのくらいするのがいいか調整する力) の育成に努めた。 来年度も ICT を活用した学びの展開を校内研修で交流しながら推進していく。そのためにも自律した児童の育成を目指して取組を進める。
課題教育	人権教育 体力アップ	自尊感情と人権意識の高揚	B	<ul style="list-style-type: none"> 「自分にはよいところがある」について「わからない」の回答が6月より増加している。保護者の「褒めたり認めたりしている」との回答は上昇傾向にあることから、教職員の児童への声かけを含め、子どもたちにしっかりと届いているか考える必要がある。 生活目標に掲げた芦田恵之助先生の「礼を正す」「場をきれいに」「時を守る」を子どもたちが意識して行動している。 児童会による縦割り班活動やほめ言葉のシャワー等、お互いを尊重し認め合う機会や活動が日常的に展開されることで関係が深まっている。
		運動への関心や体力の向上		<ul style="list-style-type: none"> 市教委指定研究「武庫川女子大学連携事業・丹波市体力アップ事業」により大学と連携した体力向上の取組を体育科の授業だけでなく、朝のトレーニングに位置付け学年に応じて継続して取り組み、体力の向上を図った。来年度も朝のトレーニングなど児童の中に定着している取組の意義を啓発しながら継続していく。

3 学校関係者評価

<p>保護者地域との連携による児童の育成について</p> <p>子どもたちがメディアと上手につき合っていくように、学校では今後もタブレットでの学習を通して、情報モラルについて学ぶ機会を持っていただきたい。また、家庭でのゲーム時間は、親がメディアの使用時間だけでなく、何を視聴しているかや誰と遊んでいるかなどを把握したうえで、子どもにあったルールを決めることが大切と感じる。次回、質問項目に「家庭でのきまりを守っていますか？」などを加えるときまりを作る家庭ときまりを守る児童が増えていくのではないかと意見を頂いた。</p> <p>多くの児童が「学校が楽しい」と答えているのは大変いいことである。しかし少数ではあるが否定的な回答をしている児童については、勉強が分かることだけでなく、コロナ禍で様々な制限の中で生活してきた内面をよく観察して頂きたい。</p> <p>学習指導について</p> <p>勉強がよく分かれると回答した児童が増えていることは大変いいことである。先生方が授業を工夫していただいた成果だと感じる。今後もクラスや学校全体で仲間を意識して取組を進めてほしい。</p> <p>人権教育・体力アップについて</p> <p>先生方は子どもたちのよさをよく認めていただいている。友だちのよさは誉めることができるけど「自分のよさ」には気がつけない子は友だちと比較しているのではないかと。親が子どもをもっと褒めてやるのが大事だと思う。「わからならしい」という回答欄をなくして調査すると自分のことをどう思っているのかが見えてくるのではないかと。との意見を頂いた。</p> <p>体力アップについては、夏休みなど家庭でも楽しんでやっていたので、指定研究がなくなっても継続した取組にしてほしいとの意見を頂いた。</p>

4 次年度の改善の方向性

<p>学校評価から成果と課題を明らかにすることができた。学校関係者から頂いた意見を来年度の学校運営に活かし、「自律」「挑戦」「多様性」を核とし、めざす児童の育成に向けて、今後も学校・保護者・地域が連携して取組を進めていきたい。</p> <p>令和5年2月20日 学校名 丹波市立竹田小学校 校長名 足立 和宏</p>
